

景観審議会から

昨年度から公募市民として景観審議会に参加しています。岡崎市の歴史的な資産や文化に触れることができます。景観について、地域について考える機会にもなっています。

☆景観と文化

「景観は文化、文化が景観になる」といわれることがあります。その地域の文化、人々の住まい方や暮らし方が家や自然の様子に現れます。古い建物や景観を残し活用していくことは、文化・景観の保全というだけではなく、その地域に住む人々の文化的な意識の表れともいえるといわれています。

都市は多様性を必要としており、古い建物はその視点からも経済的なストックとしても重要（ジェーン・ジェイコブズ）です。まちの価値を住民が知り、認めるとその維持や展開がまちづくりの実践の始まり（田村明）となるといわれています。岡崎市でも、住民の活動を促進する願いをこめています。

☆まちの資源を知ると

景観審議会では、ふるさとの木や森、景観重要建造物の指定なども行います。この数回は、指定の候補となる木や建物を視察してから会議が開かれます。地元こんな資源があるのかと毎回サプライズがあります。

自分の住んでいるまちには、とても素敵な歴史があり、その歴史を保存したり、活用したりする素敵な方々がいることが分かります。

ますます自分の住む地域が誇らしく愛着が持てるようになってきます。田村先生のおっしゃる通りになってしまっています。



この枝では子どもたちがブランコをしたりするそうです。



昔は浄水場でした。今は排水塔として現役です。



国の有形文化財に指定されています。建物の中も手入れが行き届いていました。所有者の方の心意気が伝わってきます。